

特集

排卵誘発のすべてⅡ ART 編

企画者のことば

堤 治*

無月経の診断から排卵誘発による治療は産婦人科研修医の必修事項であるが、同じ排卵誘発でも ART ではスペシャリストの様々な工夫があり、最新の情報が欠かせない。Controlled ovarian hyperstimulation は月経周期を有する不妊患者にも適されるが、2022 年 4 月には体外受精治療に保険適用が開始される予定で、排卵誘発が標準的治療としてどのように実施されるか注目されている。PPOS 黄体フィードバック法やランダムスタート法など耳に新しく感ずるが、その臨床成績に期待が集まる。また、卵巣過剰刺激症候群の予防治療は non-ART, ART を問わず排卵誘発の臨床において大きなネック

であったが、最近画期的に改善してきている。

本特集は排卵障害の治療を主とする「non-ART 編」と、体外受精治療に必須である controlled ovarian stimulation の実際を示す「ART 編」の 2 部構成である。前者では、フィードバック機構による排卵の仕組みの理解に基づき、様々な病態の排卵障害に適した治療法をマスターする。後者では、ART に必要な排卵誘発の原理原則から最新情報まで提示し、ART の保険診療開始に備える。排卵誘発に関して、研修医から ART のスペシャリストまで、日常臨床の座右に欠かせない決定版を目指した本特集をお楽しみいただきたい。

* Osamu Tsutsumi 医療法人財団順和会山王病院 名誉病院長